

事業報告書

第 12 期 (2013 年度)

自 2013 年 4 月 1 日

至 2014 年 3 月 31 日

京都市中京区六角通新町西入西六角町 101 番地

特定非営利活動法人 リボン・京都

第 12 期 (2013 年度) 事業報告

特定非営利活動法人 リボン・京都

I. 事業成果の概要

外務省の支援により「高度な洋裁技術習得によるライフ・エンパワーメント・プログラム (フェーズ 1)」を、2013 年 7 月 1 日よりルワンダ共和国キガリ市のガチュリロ職業訓練センターで開始いたしました。

過去 30 年間で 52 名もの訓練生を受け入れるのは今回が初めての試みで、開始前は少々不安でした。しかし本年 1 月に、洋裁指導責任者 中島と私 小玉が当訓練センターの特別授業実施のために当地に赴き、現場を目の当たりにし、不安はたちまち解消しました。約 6 ヶ月の間に、当会派遣のプロジェクトディレクターと洋裁専門家、ルワンダ人スタッフ 3 名による体制が上手く機能し、ミシンに触れたこともなかった訓練生達が工業用ミシンを上手に扱い、既に 6 アイテムを制作していました。訓練は午前と午後に分かれており、プロジェクトディレクターが訓練生が訓練を受けない時間帯には家庭訪問を実施し、生活困窮の実態把握に努めていました。私達も半日同行しましたが、想像以上に訓練生の家庭は貧しく、訓練所まで徒歩 2 時間かかる生徒もいました。しかし皆熱心に学んでおり、家族も非常に協力的でした。今回の訪問中に実施した公開授業には、教育省ンセンギンバ技術職業訓練担当大臣や小川駐ルワンダ日本大使ご夫妻等もご出席くださいました。現地のラジオ、テレビ、新聞にも大きく取り上げられ、ルワンダ国内の良い広報となりました。

また本年 3 月 28 日には、米国ニューヨーク市で開催された世界ファッションイベント「国境を越えた想像力：多文化アートと伝統文化の力で世界の女性をエンパワー！」に、主催団体である **MARITAGE International** から日本で唯一当会を招待いただき、理事長、事務局員が出席しました。**MARITAGE International** はグローバルな非営利組織で、公的機関、各国女性リーダー、プライベートセクター、国際機関のハイレベルなスタッフを中心としたボランティアメンバーで構成されており、国連関係者、各国政府高官、アメリカのエコノミストなどのメンバーが支援しています。当会の 30 年以上の着物地による途上国の女性の経済的精神的自立支援と、最新のルワンダプロジェクトである 1994 年ジェノサイド生存者を含む貧困層の若者対象に、着物地を活用した高度な洋裁技術訓練が評価され、表彰されると同時にトロフィーをいただきました事をご報告いたします。本イベント内では当会 洋裁指導責任者 中島茂代デザインの着物地ドレス、洋裁専門家 鈴木掌デザインの現地絹地ドレスなどを披露、当会の活動をアピールいたしました。また、私 小玉も当会の歴史と活動をプレゼンテーションいたしました。今回披露したドレスは、アメリカの有名なファッション雑誌「ハーパース・バザー」9 月号 (インターナショナル版) 掲載予定です。

今後、リボン・ウエアが更に有名になり訓練修了生のフェアトレード作品の販売に繋がるよう願っています。

理事長 小玉 昌代

II. 事業の実施に関する事項

1. 特定非営利活動に係る事業

(1) 指導事業

① 高度な洋裁技術習得によるライフ・エンパワーメント・プログラム（フェーズ1）

- 実施日時： 2013年7月1日～2014年6月30日
- 実施場所： ルワンダ共和国キガリ市 ガチュリロ職業訓練センター
- 対象者： 首都キガリの若年ユース貧困層52名（16～35歳）
- 従事者の人数： 事業従事者15名（国内3名、海外2名、現地スタッフ3名）
国内作業従事者20名
- 助成金額： 26,436,303円
- 支出額： 20,769,162円（3月31日までの実績）
- 現地事業内容：

2013年7月より外務省日本NGO連携無償資金協力の支援を受け、ルワンダ共和国にて、「高度な洋裁技術習得によるライフ・エンパワーメント・プロジェクト（フェーズ1）」を開始した。

洋裁技術訓練は、13台の工業用電動ミシンによる高度な日本の洋裁技術習得訓練を平日4日、午前26名、午後26名、各4時間のコースに分かれ実施。訓練開始から7ヶ月経過した現在、工業用電動ミシンに触れたこともなかった訓練生たちが、ミシンを自在に扱うまでの成長している。また日本全国から寄贈された正絹の着物を訓練教材として使用し、3月31日現在、年間カリキュラム内の着物地による8アイテムの洋服制作実習のうち、7アイテムの実習を終了している。日本人現地事業担当兼洋裁専門家1名および現地洋裁専門家2名の協働による英語および現地語であるキニアルワンダ語による訓練を実施。実地洋裁訓練合計3名体制によるハンズ・オン指導により、訓練生は訓練内容を完全に理解し、着実な洋裁技術の習得に繋がっている。

現地洋裁専門家に対しては訓練生への洋裁指導開始前に、1ヶ月間日本人洋裁専門家によるトレーニングを実施（TOT：Training of Trainer）。訓練生訓練開始後は、1週間のうち平日週4日は、現地洋裁専門家が日本人洋裁専門家の補佐として訓練に従事。週1日は日本人洋裁専門家による洋裁理論面および技術面の強化訓練を実施し、洋裁技術レベルが着実に伸びている。また日本人ミシン保守専門家を短期派遣し、ミシン組み立ておよび資機材メンテナンス講習を実施。ミシン不具合にも対応できるようになった。

訓練開始後2ヶ月ごとにカウンターパートである職業開発庁およびパートナーのキガリ市を訪問し、ミーティングを開催。職業開発庁長官、キガリ市副市長に進捗状況を直接報告。現時点の進捗状況に高い評価を受けている。その際、適切なモニタリング、今後の持続性のための協力体制、方向性についても話し合いを実施。この様子はルワンダの職業開発庁ホームページでも随時紹介され、ルワンダ国内における広報強化にも繋がっている。

2014年1月には日本より事業統括と洋裁指導責任者が渡航し、訓練生の技術補完およびさらなる技術向上訓練を目的とした洋裁指導責任者による特別授業を実施。そのうち1日は、教育省ンセンギユンバ技術・職業訓練担当大臣、小川駐ルワンダ日本大使らを招き、公開授業も実施し、その様子が現地新聞、ラジオ、テレビなどでも配信され、ルワンダ国内でも事業に対する理解を促進することができた。

フェーズ1残りの3ヶ月では、これまでの洋裁技術習得訓練に加え、実際の収入、雇用創出面強化のために、カウンターパートである職業開発庁協力によるビジネス面強化のためのマーケティング研修も実施する。また着物生地による実習終了後は、ルワンダの伝統的な生地「ギテンゲ」を使用した実習に入り、made in Rwanda 製品の開発、製作実習を行う。更に訓練生の技術維持、向上を目的に、キニアルワンダ語、英語、日本語三カ国語併記の洋裁テキストブックも製作予定である。6月末の訓練修了時には、習得技術およびmade in Rwanda 作品披露の場として、修了式を兼ねたミニファッションショーを開催予定で、修了生には洋裁技術習得修了証を授与すると同時に、政府関係者、関係機関代表も招待し、その成果を直接確認、共有することで今後の更なる持続的な活動に繋げていく。

- 現地派遣状況
 - 派遣事業担当者 2013年7月～
現地事業責任者、事業担当(洋裁技術) 各1名
 - 派遣専門家 2014年1月27日～1月31日
理事長、理事兼洋裁指導責任者
(洋裁指導責任者特別授業、公開授業)
- 指導内容
 - 訓練生に対する高度な洋裁技術訓練(製図と縫製実習)
 - 現地洋裁専門家へのTOT(Training of Trainer)
 - ミシン保守専門家によるミシンメンテナンス講習
 - 適切なモニタリング・評価
 - 洋裁指導責任者による特別授業と公開授業
- 成果
 - 訓練生に対する高度な洋裁技術訓練(製図と縫製実習)
平日4日 午前・午後に分かれて各4時間実施。
1ヶ月平均64時間(1日4時間×週4日×4週間)
7アイテム実習完了(「浴衣ブラウス」「巻きスカート」「着物地ブラウス」「イージーパンツ」「スラックス」「袖なしワンピース」「長袖シャツブラウス」— 1アイテムにつき55着、7アイテムで385着制作)
 - 現地洋裁専門家へのTOT(Training of Trainer)
洋裁技術訓練開始前に、1ヶ月集中トレーニングを実施。
訓練開始後、週4日は、日本人洋裁専門家の補佐。週1日は、日本人洋裁専門家による洋裁倫理面および技術面の強化訓練。
1ヶ月平均160時間(1日8時間×週5日×4週間)
 - ミシン保守専門家によるミシンメンテナンス講習
ミシン組み立ておよび資機材メンテナンス講習の実施。
 - 適切なモニタリング・評価実施
2か月ごとにカウンターパートである職業開発庁およびパートナーのキガリ市を訪問し、ミーティングを開催。
 - 洋裁指導責任者による特別授業と公開授業
訓練生に対して、4日間の特別授業を実施。うち1日、教育省ンセンギユンバ技術・職業訓練担当大臣、小川大使らを招き、公開授業を実施。

② 京都における被災者支援事業

- 実施日時： 2013年4月～
- 実施場所： リボン・京都 日本事務局
- 対象者： 東日本大震災の影響で京都に避難している被災者5名
- 従事者人数： 事業従事者3名
- 支出額： 総額37,814円(3月31日までの実績)
- 事業内容：
東日本大震災の影響で京都に避難している方々の洋裁技術習得による経済的自立を目的とした、洋裁ワークショップを4月から開始。現在5名が月2回当会オフィスを訪れて洋裁技術を身につけている。
- 指導内容：
リボンウェア4作品製作(「浴衣ブラウス」「ベーシックカーディガン」「袖なしワンピース」「羽織ジャケット」)
リボン小物3作品製作(「さらし刺し子布巾」「着物地はたき」「ねずみ」)

③ フォローアップ事業

a. ラオス・サバナケート県立職業訓練校へのフォローアップ事業

- 実施日時： 2013年10月11日～10月19日
- 実施場所： ラオス国サバナケート県 県立職業訓練校洋裁科
- 対象者： 同校洋裁科の生徒6名、教員5名
- 従事者人数： 事業従事者4名 国内作業従事者20名
- 補助金額： 710,000円
- 支出額： 総額2,000,721円
- 事業内容：
 - 財団法人大阪コミュニティ財団 がっこう基金の補助を受け、「ラオス国サバナケート県立職業訓練校における洋裁技術訓練の持続的発展支援事業」として、事業責任者、洋裁指導責任者、ミシン保守専門家、事業コーディネータを派遣して、訓練生に対する洋裁技術指導、洋裁教師に対する指導力向上指導およびミシン保守管理指導を実施した。
- 指導内容：
 - 洋裁技術指導
 - リボンウエア 6 アイテム製作（「インナーブラウス」「メンズシャツブラウス」「裂織ベスト」「スリッパ付きワンピース」「リバーシブルコート」「七分丈パンツ」）
 - リボン小物 4 アイテム製作（「かえる」「恐竜」「裂織バック」「タブレットカバー」）
 - 洋裁教師に対する指導力向上指導
 - ミシンの保守管理指

b. ヨルダン・南シューナ郡へのフォローアップ事業

- 実施日時： 2014年2月3日～2月6日
- 実施場所： バルカ県南シューナ郡
- 対象者： アル・ジョーフア村、アル・ジャワスレ村の寡婦や未婚女性及び貧困層の女性とその家族、アル・ジャワスレ村の連携NGO 8名（16～55歳）
- 従事者人数： 事業従事者3名 国内作業従事者20名
- 支出額： 総額258,459円
- 事業内容：
 - 事業責任者、事業コーディネータを派遣し、昨年まで実施していた「ヨルダン南シューナ郡における女性の自立のための洋裁技術職業訓練事業」の現地フォローアップを実施。現地コーディネータ、女性団体メンバーを訪問、国内土産物店を視察し、事業終了後の現地の状況を確認。
- 指導内容：
 - コーディネータからの状況ヒアリングと今後の打合せ
 - 修了生に対する状況ヒアリングと洋裁指導
 - リボンウエア 3 アイテム（「フレアブラウス」「浴衣ブラウス」「浴衣タンクトップ」）
 - リボン小物 2 アイテム（「ヨルダン刺繍袋」「ラクダ」）
 - 取引土産物店への訪問と状況ヒアリング

④ フェアトレード事業

a. ラオス・サバナケート県立職業訓練校とのフェアトレード事業

- 実施日時： 通年
- 実施場所： ラオス国サバナケート県 県立職業訓練校洋裁科
- 対象者： 同校洋裁科の生徒6名、教員5名
- 従事者人数： 事業従事者3名 国内作業従事者20名
- 仕立て代支給額（年間）： 総額74,729円
- 事業内容：

2007年 外務省日本 NGO 連携無償資金協力を受け、サバナケート県立職業技術訓練校に洋裁科を設立。三年に渡り同校で洋裁技術指導事業を実施し 2010年 1月に事業を終了した。その後、訓練生らが習得した洋裁技術の維持向上のために、同校とフェアトレード形式の指導を継続しており、本年度も実施。8月と3月の2回、パターンや指示書、着物地等の必要材料をを当会で準備・送付し、製作依頼。その後、返送されてきた完成作品に対して洋裁指導責任者の評価を行い、評価結果をフィードバックすると同時に評価に応じて仕立て金を支払った。

- 指導内容（年間）：
リボンウエア 19 アイテム（「テーラージャケット」「スーツ（裏付きジャケット&スカート）」「Yラインブラウス」「サマーワンピース（半袖・長袖）」「狩衣」「サマーコート」「ライトコート」「フレアドレス」「カジュアルワンピース」「裏付きキュロットパンツ」「袖なしワンピース」「タンクトップ」「八枚はぎスカート」「黒地ブラウス」「アロハシャツ」「アンサンブル（半袖ワンピース&長袖ブラウス）」「裂織ベスト」「ファインブラウス」「フレアブラウス」）
リボン小物 9 アイテム（「ショルダーバック」「裂織バック」「かえる」「パッチワークメガネケース」「タブレットケース」「恐竜」「バックインバック」「ベビーキルト刺しゅう」）

b. ヨルダン・南シューナ郡とのフェアトレード事業

- 実施日時： 通年
- 実施場所： バルカ県南シューナ郡
- 対象者： アル・ジョーフア村、アル・ジャワスレ村の寡婦や未婚女性及び貧困層の女性とその家族、アル・ジャワスレ村の連携 NGO 8名（16～55歳）
- 従事者人数： 事業従事者 3名 国内作業従事者 20名
- 仕立て代支給額（年間）： 総額 27,449円
- 事業内容
2010年外務省日本 NGO 連携無償資金協力を受け、三年に渡り洋裁技術指導事業を実施し、2013年 3月に事業を終了した。その後、訓練生らが習得した洋裁技術の維持向上のために、フェアトレード形式の指導を継続した。12月の1回、パターンや指示書、着物地等の必要材料をを当会で準備・送付し、製作依頼。その後、返送されてきた完成作品に対して洋裁指導責任者の評価を行い、評価結果をフィードバックすると同時に評価に応じて仕立て金を支払った。
- 指導内容（年間）：
リボンウエア 3 アイテム（「半袖ワンピース」「袖なしワンピース」「キュロットパンツ」）
リボン小物 1 アイテム（「ヨルダン刺繍巾着」）

c. ラオス・ビエントーン村 フェアトレード事業

- 実施日時： 通年
- 実施場所： ラオス国ビエンチャン県ヒンフープ郡ビエントーン村
- 対象者： ビエントーン村の女性約 40名（19歳～53歳）
- 従事者人数： 事業従事者 3名 国内作業従事者 20名
- 仕立て代支給額（年間）： 総額 6,698円
- 事業内容：
2007年ボランティア貯金の寄附金配分を受け、ビエンチャン県ヒンフープ郡ビエントーン村にて洋裁と草木染、織物の指導を実施。その後、訓練生らが習得した洋裁技術の維持向上のために、フェアトレード形式の指導を継続。本年度は、10月に1回、コーディネータを通じて草木染スカーフの製作を依頼。完成作品に対して洋裁指導責任者の評価を行ったが、当会が指導内容とは違って色や織り方の悪い作品であった。現地コーディネータを通じて原因を確認したところ、現地では安価なポリエステル系と化繊染で織ったスカーフの

需要が高く、女性達はそれらを中心に製作しており、草木染の技術が落ちたとの回答であった。後日、評価結果をフィードバックすると同時に評価に応じて仕立て金を支払った。

- 指導内容（年間）：
リボン小物1アイテム（「草木染スカーフ」）

d. ベトナム 洋裁指導・フェアトレード事業

- 実施日時： 通年
- 実施場所： ホーチミン市
- 対象者： ホーチミン市の婦人学級の卒業生2名
- 従事者人数： 事業従事者3名 国内作業従事者20名
- 仕立て代支給額（年間）： 総額34,855円
- 事業内容：
1992年から続いた洋裁指導事業、およびフェアトレード事業も、卒業生が縫製工場に勤めたり自身で洋裁店を開くなどし、当会のサポートなくとも経済的に自立できるようになった。よって、今年度は前年度の未払い分を支払い、それをもってフェアトレード事業を終了した。

(2) バザー事業

- 実施日時： 通年
- 実施場所： 下記参照
- 従事者の人数： 20名
- 事業内容：
海外開発支援活動において当会洋裁技術訓練修了生らが製作したりボンウェアや小物等を展示販売するチャリティ展示即売会、委託販売、バザーを実施。訓練生の技術習得の成果を問う機会とした。売上は、洋裁指導事業活動資金に充当。

販売場所	期 間	売 上
リボン・京都販売店 三田村	通年	1,161,795円
高島屋京都店	4月	919,800円
	1月	1,015,600円
瓢樹	通年	80,400円
奈良木立バザー	1月	90,800円
その他事務局などでの売上	通年	425,366円
売上総額		3,693,761円

(3) 人材育成事業

① 就業実習生受け入れ（京都障害者就業・生活支援センター）

- 実施期間： 2013年9月
- 実施内容：
京都障害者就業・生活支援センターより、職場実習生を1名受け入れ、当会で無償にて、洋裁就業実習を実施。修了後、実習生は百貨店関係会社に就職。

(4) 広報支援事業（「Panasonic NPOサポート ファンド for アフリカ」）

- 日時： 2014年1月1日～2014年12月31日
- 補助金額： 1,000,600円
- 支出額： 69,847円（うち3月31日までの実績）
- 事業内容：
パナソニック株式会社からの補助を受け、広報ツール充実による情報発信力強化と組織経済基盤の強化に取り組む事業を開始。オンラインでのリアルタイムな情報発信と、着物を使った商品購入や直接対話を通じて、当会活動への理解を深め、会員・寄付や商品購入などの継

続的支援者となってもらうために、まずは、ホームページやパンフレット・チラシをより訴求力のあるものへと改定作業を現在進行中である。

(5) 啓発および広報事業

① 第 27 回 京都チャリティ・ファンランへの協力

- 日時： 2013 年 6 月 2 日
- 場所： 宝が池公園「いこいの森」
- 参加人数： 約 1,350 名
- 実施内容： 京都チャリティ・ファンラン実行委員会主催のマラソン大会に協力団体として参加。主に大会前日の準備と当日の運営手伝いを行った。後日、大会参加費のうち 70 万円を当会に寄付いただいた。

② リボーントーク with 京都&ルワンダ! の開催

- 日時： 2013 年 12 月 12 日
- 場所： リボーン・京都販売店 三田村店
- 参加人数： 8 名
- 実施内容： 当会支援者の方と直接対話を通じて当会活動の理解を深めていただく機会として、リボーントークを開催。当日 2 回、リボーン・京都や現在実施しているルワンダ事業の説明と現状、およびルワンダと京都をテレビ電話（スカイプ）で繋ぎ、リアルタイムで支援者とルワンダ現地訓練生との交流会を実施した。

③ 「JICA-NGO 連携による実践的参加型コミュニティ開発研修」(JICA 関西・関西 NGO 協議会協働) 研修員受入

- 日時： 2013 年 8 月 27 日
- 場所： リボーン・京都 日本事務局
- 参加人数： 「JICA-NGO 連携による実践的参加型コミュニティ開発研修」(JICA 関西・関西 NGO 協議会協働)研修員 15 名
- 実施内容： 「JICA-NGO 連携による実践的参加型コミュニティ開発研修」(JICA 関西・関西 NGO 協議会協働)の一環として、アフガニスタン、東ティモールなどの途上国から参加した研修員を受け入れ。理事長、洋裁指導責任者、マネージャー、ボランティアメンバー 2 名で、当会国際協力事業の講義と“京うちわ”製作ワークショップを実施した。

④ 大阪追手門学院大学 フィールドワークの実施

- 日時： 2013 年 11 月 30 日
- 場所： リボーン・京都日本事務局
- 参加人数： 大阪追手門学院大学の学生 6 名
- 実施内容： 関西 NGO 協議会を通して大阪追手門学院大学のフィールドワークの一環として、学生を受け入れ。理事長、洋裁指導責任者、マネージャー、ボランティアメンバー 1 名で、当会国際協力事業の講義と“着物地巾着袋”製作ワークショップを実施した。

⑤ 大阪ワンワールドフェスティバル「地球のステージ『つながる日本とアフリカ』篇」の登壇 (JICA なんとかしなきゃ!プロジェクト主催)

- 日時： 2014 年 2 月 2 日
- 場所： 大阪国際協力センター
- 実施内容： 当会マネージャーが登壇し、ルワンダでの事業の話や NGO 職員からみた国際協力の仕事について話をした。

⑥ ファッションイベント「国境を越えた想像力：多文化アートと伝統文化の力で世界の女性をエンパワー！」への参加 (MARITAGE International 主催)

- 日時： 2014年3月26日～28日
- 場所： 米国ニューヨーク市 Union League Club 他
- 実施内容：

MARITAGE International の招待により、MARITAGE International 主催のファッションイベントに理事長および事務局員が参加。当会の30年以上の着物地による途上国の女性の経済的精神的自立支援と、最新のルワンダプロジェクトである1994年ジェノサイド生存者を含む貧困層の若者を対象に着物地を活用した高度な洋裁技術訓練が評価され、表彰いただいた。またイベント内では、理事長による当会の歴史と活動のプレゼンテーションや洋裁責任者・専門家デザインの着物地やギテングドレスを披露。当会の活動や活動での作品をアピールした。

(6) 国内における人材育成

英語講習 週1回、本部事務局にて、海外事業調整や海外事業やチャリティ運営を円滑に行うための語学力を養う目的で、米国人英語講師のもと、英語講習を実施。

(7) 着物の募集活動

会誌、新聞、イベントを通じて古着物の寄贈を呼びかけ、全国より着物が寄贈された。種類別に仕分け保管し、必要に応じて選び出し、海外事業地での洋裁指導教材として活用。

<2013年度 着物寄贈状況>

○着物	231点	○布地	149点
○帯	207点	○着物反物	29点
○羽織	145点	○浴衣反物	29点
○浴衣	17点	○留袖	13点
○コート	53点	○その他	122点
○襦袢	43点		
合計			807点

2. その他の事業

- 実施日時： 通年
- 実施場所： バザー事業と同場所
- 従事者の人数： 20名
- 実施内容：

国内購入スカーフ等の商品やネクタイ・うちわの加工品の展示即売会、委託販売、バザー実施。および、国内で受注したりボンウェアの仕立てを実施。売上を、洋裁指導事業活動資金に充当。

スカーフ、ネクタイ、お仕立て等	通年	269,700円
売上総額		269,700円

III. 会務報告

1. 会員状況 (2014年3月31日現在)

	期首	増	減	期末
正会員	36名	0人	0名	36名
賛助会員	44名	2名	5名	41名
ボランティア会員	3名	0名	2名	1名

正会員・ボランティア会員活動状況：

活動日： 毎週火曜日、金曜日（年間通算 140 日）

活動場所： 本部事務局

活動内容： 寄贈着物の仕分け・保管。海外洋裁指導に向けた資機材準備、着物の選び出し、着物のほどこき、洗い、干し、アイロンがけ。サンプル教材製作、付属教材準備。海外現地完成作品の品質チェック、手直し、ボタン、タグ付け。チャリティーバザー出品用手芸品製作、チャリティーバザー展示準備、接客、販売、その他事務局業務補助。

2. 役員状況（2014年3月31日現在）

	氏名	常勤／ 非常勤	現職・所属	任期
理事長	小玉昌代	常勤	(特活)リボン・京都 理事長 (社)日本国際民間協力会 理事	2012年6月1日～2014年5月31日
理事	中島茂代	常勤	(特活)リボン・京都 洋裁指導責任者	2012年6月1日～2014年5月31日
理事	小野了代	非常勤	(社)日本国際民間協力会 理事長	2012年6月1日～2014年5月31日
理事	猪野三智子	非常勤		2012年6月1日～2014年5月31日
理事	都留良子	非常勤		2012年10月30日～2014年5月31日
理事	渋谷みち子	非常勤		2012年10月30日～2014年5月31日
監事	北野與志朗	非常勤	公認会計士	2012年6月1日～2014年5月31日

3. 職員状況（2014年3月31日現在）

	有給専従職員	有給非専従職員	無給専従職員
国内	1名	1名	1名
海外	2名	2名	0名

海外：ラオス有給非専従現地職員：1名 ヨルダン有給非専従現地職員：1名

4. 総会および理事会

<総会>

2013年度通常総会

- 日時： 2013年5月28日（火）
- 場所： 特定非営利活動法人リボン・京都 事務局
- 出席者： 41名（内27名は委任状出席）
- 審議事項： ① 2012年度 事業報告・会務報告
② 2012年度 決算書類
- 報告事項： 今後の活動予定

<理事会>

2013年度第1回理事会

- 日時： 2013年5月22日（水）
- 場所： 特定非営利活動法人リボン・京都 日本事務局
- 出席者： 理事5名、監事1名（内1名は書面表決）
- 審議事項： ① 2013年度 通常総会開催 承認の件
② 2012年度 事業報告・会務報告
③ 2012年度 決算書類
④ 2013年度 事業計画および活動予算書変更
- 報告事項： 今後の活動予定

2013年度第2回理事会

- 日時： 2013年12月18日（水）
- 場所： 特定非営利活動法人リボン・京都 日本事務局
- 出席者： 理事5名、監事1名（内4名は書面表決）
- 審議事項： ① 和解金支払い
② 理事二名からの借入金
- 協議事項： 現地スタディツアー事業の立ち上げについて

2013年度第3回理事会

- 日時： 2014年3月19日（水）
- 場所： 特定非営利活動法人リボン・京都 日本事務局
- 出席者： 理事5名、監事1名
- 審議事項： ① 2014年度 事業計画
② 2014年度 予算案
- 報告事項： 2013年度 事業状況

5. 会誌発行

「News! 甦 vol. 21」

発行：2013年7月1日

- 内容：・ヨルダン南シューナ郡における女性の自立のための洋裁技術職業訓練事業
フェーズ3終結
- ・ヨルダン帰国報告会開催
 - ・米国ボストンより女子大学院生来日
 - ・京都高島屋チャリティ展示即売会開催
 - ・リボン・京都販売店三田村 祇園祭チャリティセールの案内
 - ・2012年度 活動計算書

「News! 甦 vol. 22」

発行：2013年12月1日

- 内容：・ルワンダ共和国 高度な洋裁技術習得によるライフ・エンパワーメント・プロジェクト
フェーズ1開始
- ・震災復興プロジェクト in 京都
 - ・ラオス国サバナケート県立職業訓練校における洋裁技術訓練の持続的発展支援事業
 - ・JICA 海外研修員京都本部オフィス訪問
 - ・リボン・京都販売店三田村 クリスマスチャリティセール&リボントークの案内
 - ・高島屋京都店チャリティ展示即売会の案内